Y31b　美術館での宇宙展示企画、「宇宙を見る目」の試み

大西浩次 (長野高専), 鈴木幸野（志賀高原ロマン美術館）,「宇宙を見る目」実行委員会

天文学は宇宙をどのように見てきたか。いま、21 世紀になり、宇宙の起源や生命の起源、第二の地球探しなど、人間の持つ非常に根源的な疑問に答えることができる時代になりつつある。その一方で、観測装置の高度化や観測結果の複雑さは、一般の人々にとって、前にも増して、天文学が遠い世界になりつつある。

私たちが宇宙に持っているいろんな感情をどのように表現することができるのであろうか。最新の天文学と人々の感覚をどのように繋いで行くことができるであろうか。この一つの試みとして、最新天文学と現代アートを融合させ、新しい表現を作る過程において、これまでに無いスタイルの天文教育が展開する可能性がある。いま、長野県山ノ内町立「志賀高原ロマン美術館」では、2015 年の夏企画として「宇宙を見る眼」展を行う予定である。そこでは、宇宙とはなにか—「宇宙を見る眼」をコンセプトに、最新の科学技術からアート作品まで、さまざまな「眼」を通した宇宙像を提示することを目的としている。

展示内容として、（交渉中を含む）最先端技術の凝縮された機能美としての受信機や撮像装置など、実際の望遠鏡や電波望遠鏡に使用されている（使用された）装置とそこから導かれた科学的成果の図表や、波長による眼の違い（多波長によるリアルタイムの太陽像）、さらには、長野県にゆかりのあるアーティストたちによる「宇宙」の展示など多角的な展示を示しながら、全体として現代の宇宙観を表現してゆきたい。

同時に、これらの企画の活動自体が、一つのアートであると捕らえている。また、新しい天文教育の創造の場であるとも考えている。そのため、現時点でも多様な企画を受け入れる可能性を残している。ぜひとも、皆さんと一緒に宇宙観を作り上げて行きませんか？